



穏やかな小春日和が続いています。

先日は、運動会にご参加くださり誠にありがとうございます。爽やかな青空の下で弾ける園児たちの笑顔がとても印象的でした。日頃の取り組みの成果が存分に発揮された運動会になったと思います。保護者の皆様、熱い応援を送ってくださり、ありがとうございました。また、駐車場の使用についてもご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、12月の大きなめあては「楽しく」です。クリスマス、年末、年始と、子どもたちにとっては楽しいイベントがたくさん待っていることでしょう。当園でもこれらに向け、園児たちが「楽しい」と思える環境を作り、「とってもたのしい」と思ってもらえる活動を計画していきたいと思います。

＜これからの予定＞

- 12月 1～5日 保護者保育体験
- 12月 8日(月) 身体計測週間(～12日、すももぐみ、かりんぐみ、れもんぐみ)
- 12月11日(木) 避難訓練(火災想定、通報訓練)
- 12月15日(月) 身体計測週間(～19日、いちごぐみ、あんずぐみ、きういぐみ)
- 12月22日(月) クリスマス会
- 12月23日(火) 健康診断
- 12月25日(木) 誕生会、クリスマスクッキング🍰(れもんぐみ)
- 12月27日(土) お弁当🍱
- ※ 12月29日～1月3日 年末年始休業
- ※ 1月5日(月) 保育始め

「思い」はつながっています！

運動会が終わり、秋の自然と触れ合う機会が多くなりました。当園は、年下のクラスと年上のクラスで散歩に出かける機会が多いので、異年齢交流も自然と増えていきます。

先日、米良ひろばでのこと。運動会の取り組みを通してれもんぐみの年長児がなわとびを跳ぶ姿に憧れを抱いた一つ年下のかりんぐみさんが、れもんぐみさんになわとびの跳び方を教わっていました。れもんぐみさんは、努力して跳べるようになったばかりなので、どのようにして跳べるようになったのかわかりやすいように「なわをまえにまわして、“このへん”にきたときにとべばいいんで」と、具体的にアドバイスしていました。

また、かりんぐみのAさんは、友だちのBさんを通じて仲良くなったBさんの妹、Cさんに慕われるようになり、CさんはAさんを見かけると手をつなぎに行きます。Aさんは何も言わず手をつなぎ、米良ひろばを2人で散歩していました。Cさんの疑問に答えるAさんの姿がとても素敵でした。

日常の保育のなかでの些細な関わりがそれぞれの大きな学びにつながっていることを実感しています。この尊い時間を日々大切にしていきたいと思います。



“とびかた、おしえちゃろうか？”



おさんぽちゅうです



“なんかとびよん”“へりこぶた一だね”

今回は紙面の都合で説明しきれなかった⑦項目以下の内容を今回は順次紹介していきたいと思います。

⑦子どもの心に共感してあげる

子どもと喜びを共にし、悲しみを分かち合うことが子どもたちの心への共感です。子どもへの心への共感、子どもの気持ちを理解し、それを正面から受け止め、信頼関係を築き、自己肯定感を高め、親子の良好な人間関係を築きます。具体的には、子どもの話に耳を傾け、「嬉しいね」「良かったね」「そうだね」「悔しいね」「つらかったね」などの気持ちを言葉にして子どもに寄り添うことです。

子どもたちは、いつも人間関係の中に生きています。それを生活の場で実感するのが子どもへの共感なのです。子どもは、自分の嬉しかったことに周りの人が共感してくれるとその喜びは二倍にも三倍にもなります。悲しいことに共感して貰うとその悲しみは半分になって気持ちが落ち着きます。

大人が子どもの感情に寄り添い、それを言葉で示すと子どもは「自分の気持ちが理解されている」という安心感を抱き、様々な感情の表現を身につけていきます。このように喜びも悲しみも周りのみんなで分かち合うと子どもは二倍も三倍も幸せになります。

少し突っ込んで考えると、親や周りの大人が子どもの気持ちを受け止め、共感してくれると、子どもは「自分のことを分かってくれている」と感じ信頼感を深めるのです。この自分が共感されるという体験を通して、子どもは「人の気持ちを理解する」ことができるようになり対話的能力を高めていきます。このような共感力のある子どもは、困っている人を助けたり協力したりして喜びを分かち合い、相手の感情を理解し、思いやりのある行動が取れるようになります。

また、自分の感情を否定されずに受け入れられる共感の経験は、「あるがままの自分をこれで良い」と肯定できる自己肯定感や自尊感情を育むことにも繋がります。これは、挫折や失敗を乗り越えて生きていくための大きな土台となります。さらに、共感力が高くなると友だちや先生など家族以外の人との関係もよくなり心の成長や良好な人間関係を築き、成長してから社会でスムーズな人間関係を築くことができるようになります。

このような共感の経験を積み重ねるのには親子の関わりが必要ですが、ここで親ができる具体的なこととして、子どもが喜んでいる時も、悲しんでいる時も、子どもの感情を「楽しかったね」「悔しかったんだね、つらかったね」などとそのまま言葉や態度で示してあげることです。また、ネガティブな怒りや悲しみの感情もすぐに「ダメ」と抑えつけるのではなく、まずは「そういう気持ちもあるよね」と共感して受け止め、興奮を鎮めることが大切です。さらに、親が家族や周りの人の気持ちに配慮しながら共感する姿を子どもに見せることで、子どもは共感の大切さを学び真似するようになります。

⑧子どもとした約束は守ってあげる

子どもとの約束を守ってあげると子どもは安心して親子の信頼関係ができます。それは、対人関係においても、家庭生活においても、社会生活においても生活の基本になります。子どもが家族や友人とする約束は、お互いの信頼関係の上で成り立っています。子どもとの約束を破れば大人としての信用をなくしてしまいます。したがって、子どもとの約束を守ることは、親子の間に強い信頼関係を築くこととなり子どもの成長にとっても非常に大きな影響があります。親が約束を簡単に破ってしまうと、子どもは親の言葉を信じなくなり、「どうせ口だけだから」「自分のことは大切に考えてくれない」と考え自己肯定感が低下してしまいます。

約束に対しては、子どもにも一人の人間として真摯な態度で接すると子どもは親に対して「自分との約束は必ず守ってくれる」「自分を大切に思ってくれている」という信頼と期待を抱きます。また、約束を守ることは、子ども自身の行動を制御する力、つまり自己管理能力を育むことにもつながります。これらのことにより、子どもたちが将来社会で活躍するための土台が築かれます。さらに、約束を守るということは、いろいろな約束事を守るという経験にも繋がり、子どもは社会のルールを守ることの大切さを学びます。このように約束を守る力は社会生活を送る上で不可欠であり、集団生活に適応するためにもなくてはなりません。

子どもが約束を守るようになるためには、子どもの年齢に合わせて、なぜその約束が大切なのかを説明し、納得した上で約束を交わすことが重要です。また、親が自ら約束やルールを守る姿を見せることで、子どもも「大人も約束を守っているんだ」と認識し、より現実的に約束を受け入れることができるようになります。

今回もまた、紙面の都合で紹介しようと思っていた項目を全て紹介することはできませんでしたので、次回に、⑨ポジティブな言葉かけをする ⑩よく褒めて励ます ⑪一人一人の違いに応じた対応をする ⑫子どものしていることに驚きを持つ ⑬あるがままを受け入れる ⑭明るくてほほ笑みの多い保育者 ⑮ユーモアに富んだ保育者 ⑯子どもの名前を呼んであげる ⑰人として美しくなどについて紹介していきたいと思います。



保育教諭は、毎回心を込めて子どもと共感することを心がけています。そのことが、子どもたちとの信頼関係を築くうえでとても大切なことである、ということがこのコラムでは改めて学びとなり、これでいいんだ、という安心感にもつながりました。

約束事も同様に、少し時間をかけてでも約束を守ることが子どもの信頼を得ることにつながるものだと、コラムを読んで感じました。